2026 年 3 月 31 日
株式会社三菱 UFJ 銀行

コスモエネルギーホールディングス株式会社と「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を成約

株式会社三菱 UFJ 銀行（取締役頭取執行役員 半沢（はんざわ） 淳一（じゅんいち）、以下「当行」）は、お客さまの ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを支援・サポートする「ポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「本商品」）」を提供しております。

本商品は、「持続可能な開発の 3 つの側面（経済、環境、社会）のいずれかにおいて潜在的なマイナスの影響が適切に特定され緩和され、なおかつ少なくともそれらの一つの面でプラスの貢献をもたらす」ことを企図するファイナンスであり、お客さまの事業活動が環境、社会、経済にもたらすインパクトを包括的に評価・モニタリングし、お客さまの ESG 経営を金融面から支援するものです。

本商品のインパクト評価は、当行が三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング株式会社（以下、「MURC」）と共同で策定した「ポジティブ・インパクト・ファイナンス フレームワーク」（以下、「フレームワーク」）に基づいております。フレームワークには評価にあたっての基準や体制等が規定されており、株式会社日本格付研究所（以下、「JCR」）より、国連環境計画金融イニシアティブによる「ポジティブ・インパクト金融原則」に適合している旨の第三者評価を取得しております。

この度、当行は、コスモエネルギーホールディングス株式会社に対し「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結いたしました。コスモエネルギーホールディングス株式会社の事業活動に関連する重要なインパクト領域における評価結果は次の通りです。なお、本評価は、当行と MURC が共同で実施し、フレームワークに基づいた評価である旨を JCR より確認しております。

≪本件の概要≫
コスモエネルギーホールディングス株式会社は、「私たちは、地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けての持続的発展をめざします」をグループ理念とし、自らの持続的な成長の実現をめざすとともに、事業を通じた持続可能な社会の実現に貢献することで、グループ理念の実現に向けて取り組んでいます。
また、中長期ビジョン「Vision2030」において、「グリーン電力サプライチェーン強化」「次世代エネルギー拡大」「石油事業の競争力強化・低炭素化」を柱として企業価値の最大化をめざしています。
本契約の締結に当たり、SDGs（持続可能な開発目標）の目標達成に対しインパクトを与える活動として、コスモエネルギーホールディングス株式会社の事業及び重要課題から以下のテーマを選定しています。

【ポジティブ・インパクトの創出に関する評価】

インパクトトピック	活動内容とインパクトの状況	項番
＜社会＞ エネルギー ＜環境＞	・グリーン電力の提供 └風力発電設備容量：320MW　（2024 年度） ※陸上風力・洋上風力を含む	1

気候の安定性	⎿2025 年 3 月に新岩屋ウィンドパーク、7 月に新むつ小川原ウィンドファームが運転開始し、削減貢献量も定量的に評価 ⎿再生可能エネルギーの需給のミスマッチを解決するために、電力の需給調整機能や蓄電機能の実証実施 ⎿CO_2 削減に貢献するだけでなく、日本のエネルギー自給率の向上に貢献	
＜社会＞ エネルギー ＜環境＞ 気候の安定性	・脱炭素社会の実現に向けたクリーン技術の開発 ⎿2030 年に向けた中長期ビジョンである Vision 2030 において GX（グリーントランスフォーメーション）を柱の一つとして策定し、日本初となる国産 SAF の量産化を皮切りに、実現性・事業性を見据え、水素やバイオディーゼルなどの次世代エネルギーの選択・開発を推進	2
＜社会＞ エネルギー 移動手段 ＜環境＞ 気候の安定性	・再生可能燃料（Renewable Fuel）の提供 ⎿使用済み食用油を原料とした SAF 事業化（2021 年 7 月 NEDO 事業採択）や、バイオエタノールを使った Alcohol to Jet（ATJ）技術の導入検討など、原料・製造プロセスの多角化を検討 ⎿2024 年 12 月 コスモ石油堺製油所（大阪府堺市）内において SAF 製造装置の建設完了。2025 年 4 月より航空機への SAF 供給を開始 ⎿植物由来バイオエタノールを原料とした ETBE[1]配合ガソリンを生産・供給 —バイオ ETBE 供給量：31 万 KL（2024 年度）	3
＜社会＞ エネルギー 移動手段 ＜環境＞ 気候の安定性	・原油生産業／精製業によるエネルギー供給 ⎿石油開発、石油精製、石油化学の各事業において、安全を確保したうえで DX を進めながら高効率化を推進 ⎿2024 年 5 月全製油所に Cognite 社のデータ統合基盤「Cognite Data Fusion® (CDF)」を導入し、図面・検査記録・運転データ・保全計画を一元管理 ⎿CDF で統合したプラントデータを活用し、統合モニタリングルーム「RCoE」を中心に保全業務を高度化	4
＜社会＞ 教育	・従業員の活躍推進 ⎿社員の成長を促すマネジメントや組織文化の醸成、人事制度の設計・運用、自律的キャリア形成のための学習支援を実施 —研修費用：年間 16 万円／人（2024 年度） ⎿データ利活用を軸とした人材創出を目指し、座学研修、事例共有、部署間コミュニケーションなどで DX への意識改革を推進 —データ活用コア人材の育成人数：980 人（2024 年度）[2]	5
＜社会＞ 教育	・従業員のコンプライアンス意識の向上 ⎿従業員意識調査スコア（2024 年度） —コンプライアンス教育：83% —通報窓口の認知度：92% —企業行動指針の理解：74%	6

[1] エチル・ターシャリー・ブチル・エーテル：バイオマス原料由来の添加剤
[2] データ活用コア人材の育成人数については、既に目標を達成済み

	─重大コンプライアンス違反件数：ゼロ件（2024 年度） └行動指針「コスモエネルギーグループ企業行動指針」を策定の上、全社員を対象に企業倫理・人権研修（年 1 回）、メールマガジン配信（年 6 回）、従業員意識調査（年 1 回）を実施し、倫理観やコンプライアンス意識を向上 └ハラスメントや社規違反などの相談・通報ができる「企業倫理相談窓口（企業倫理ヘルプライン）」を社内外に設置し、雇用形態や関係者を問わず対応 └サプライチェーン全体の法令遵守や人権尊重、環境配慮などの責任を「サステナブル調達方針」と「サステナブル調達ガイドライン」にて策定	
＜社会＞ 雇用	【インパクトの状況】 ・女性の採用機会の増加 └女性管理職比率：7.7%（2025 年 4 月 1 日時点） └新卒学卒女性採用比率：51%（2025 年 4 月 1 日時点）[3] 【緩和・管理の状況】 ・多様性実現のため女性活躍を最優先課題として取り組みを実施 ・法定以上に充実した育児と仕事の両立支援制度、男女共同参画への意識改革、女性の積極的な採用および職域拡大等、様々な取り組みを実施	7

【ネガティブ・インパクトの緩和・管理に関する評価】

インパクトトピック	インパクトの状況と、緩和・管理の状況	項番
＜社会＞ 健康・安全性	【インパクトの状況】 ・従業員の健康への悪影響[4] └ストレスチェック受検率：98.2%（2024 年度） └特定保健指導実施率：46%（2023 年度） └健康生活習慣指数：59.8%（2024 年度） 【緩和・管理の状況】 ・各社の人事部門や産業医、医療職、健康保険組合で構成する健康経営推進委員会を定期開催し、健康課題の共有と解決策の立案・実行を推進 ・ストレスチェック時にアブセンティーズム、プレゼンティーズム、ワークエンゲージメントを独自質問で毎年定点観測を実施	8
＜社会＞ 健康・安全性	【インパクトの状況】 ・従業員のやりがい／生産性の低下 └従業員意識調査スコア：62 ポイント（2024 年度）[5] 【緩和・管理の状況】 ・毎年、上司との対話を通じてキャリア申告ができる制度や社員が希望部署の選考を受けられる「ジョブチャレンジ制度」を実施 ・キャリアや健康について学び、将来を考える「キャリつく」期間を設定 ・自己啓発のための通信教育講座の受講費用を全額補助	9

[3] 既に目標を達成済み
[4] ストレスチェック受検率、特定保健指導実施率については、既に目標を達成済み
[5] 既に目標を達成済み

＜社会＞ 健康・安全性	【インパクトの状況】 ・労働災害の発生 └重大労働災害件数：2 件（2024 年度） ※従業員の労働災害死者の発生件数 └重大事故件数：ゼロ件（2024 年度） ※プラント事故および製品（品質）事故の発生件数 【緩和・管理の状況】 ・全社統一の操業マネジメントシステム（OMS）を構築し、不具合再発防止や先進技術による設備管理を推進 ・2024 年に発生した 2 件の重大労働災害件数を受けて、各事業会社では事故の再発防止対策を行うとともに、OMS の全社展開など、マネジメントシステムの改善活動を実施 ・2011 年 3 月の LPG タンク爆発火災事故の日を「コスモ石油安全の日」と定め、事故の風化防止と安全対策に取り組んでいる	10
＜社会＞ 健康・安全性	【インパクトの状況】 ・労働時間の増加／ワークライフバランスの悪化 └年休取得率：90.8%（2024 年度）[6] 【緩和・管理の状況】 ・社員一人ひとりが最も生産性の高い働き方を選択できるように定めた「コスモの働き方ガイドライン」に基づき、生産性向上を目指した働き方を推進 ・日勤者はコアタイムなしのフレックスタイム制や、日数制限のないテレワーク勤務が可能で、柔軟な働き方を実現 ・会社指定（年 3 日）、個人指定（年 5 日）のプリセット休暇を期初に設定し、計画的な休暇や冬季連続休暇・年末年始の取得推進	11
＜社会＞ 健康・安全性 ＜環境＞ 水域 大気 土壌 生物種 生息地	【インパクトの状況】 ・製造拠点からの有害物質の排出 └環境影響のある重大事故件数：ゼロ件（2024 年度） 【緩和・管理の状況】 ・製油所で硫黄分・窒素分の少ない燃料や排煙脱硫・脱硝装置、電気集じん機を導入し、大気汚染を防止 ・製油所に臭水処理装置、油分離装置、凝集沈殿装置、活性汚泥処理装置などを設置し、水質汚濁防止に取り組んでいる	12
＜社会＞ 水 ＜環境＞ 水域 資源強度	【インパクトの状況】 ・生産拠点周辺の水域への悪影響 └取水量合計：527,332 千 t （2024 年度） ─海水：468,123 千 t ─工業用水：58,449 千 t ─公共水道水 324 千 t ─地下水 435 千 t 【緩和・管理の状況】 ・WRI（World Resources Institute）の「AQUEDUCT」ツールで水ストレスの高い地域を特定 ・各製油所で契約使用量を目安に工業用水を使用し、水の回収・再利用などリサイクル水も活用	13

[6] 既に目標を達成済み

	・海外における石油精製事業および石油化学事業では主に海水を利用し、原油生産時の随伴水は全量地下水域に圧入 ・生産拠点において、法規制／地域協定で定められた数値や協定値を遵守 ・事業活動のすべての段階において、水やエネルギー等の資源、廃棄物の削減、再利用および再資源化に取り組み、資源の有効利用を図る	
＜社会＞ ジェンダー平等	【インパクトの状況】 【緩和・管理の状況】 ・前述の「女性の採用機会の増加」の箇所にて記載したとおり	14
＜環境＞ 気候の安定性	【インパクトの状況】 ・事業活動に伴う GHG の排出 └GHG 排出量内訳（2024 年度） ─Scope1 排出量：6,180,000t-CO_2 ─Scope2 排出量：260,000t-CO_2 ─Scope3 排出量：75,030,000t-CO_2 └GHG 排出量削減割合※（2024 年度）：2013 年度比 24%削減 └CO_2 排出削減量（Scope1・2）（2024 年度）：2013 年度比 163 万 t-CO_2e 削減 └CO_2 削減貢献量（2024 年度）：47 万 t-CO_2e ※ GHG 排出量は Scope1・2 排出量から、再生可能エネルギーおよびバイオ燃料による削減貢献分を控除した数値 【緩和・管理の状況】 ・2050 年のカーボンネットゼロに向けて重点的に取り組むテーマやその工程をまとめたロードマップを策定。GX リーグに参画し、排出削減目標を設定 ・省エネルギーや燃料転換の積極的な実施、ネガティブエミッション技術の活用 ・グリーン電力、次世代エネルギーといった新たなテクノロジーを導入 ・コスモエネルギー開発において、原油生産に随伴して発生するガスを全量回収して地下の油層に再圧入するゼロフレア操業により、大気汚染防止と CO_2 排出の削減に寄与 ・石油連盟が策定した「石油業界のカーボンニュートラルに向けたビジョン（目指す姿）」に参画し、取り組みを実施 ・コスモ石油マーケティングにて、再生可能エネルギーおよび EV などの導入、ならびにその効果的な活用をワンストップで提供する商品「コスモ・ゼロカボソリューション」を法人・自治体向けに展開	15
＜環境＞ 土壌 生物種 生息地	【インパクトの状況】 ・事業活動により影響を受ける自然資本の保全 └工場操業から発生する光や騒音が周辺の生息動物に影響を与える可能性 └製油所や工場からの排水により、地域の生息動物／水／土壌に変化を生じさせる可能性 【緩和・管理の状況】 ・TNFD 提言に基づき、事業と自然の関係性を把握し、リスク評	16

	価・分析を試行的に実施 ・自然資本への影響の対策として、騒音規制法に則った騒音対策や PRTR 法対象物質の排出移動量を把握 ・経団連生物多様性宣言イニシアティブや 30by30 アライアンスに参加し、生態系保全や生物多様性配慮の取り組みを推進 ・コスモ石油の中央研究所が地域生物多様性増進法に基づく「自然共生サイト」に認定	
＜環境＞ 廃棄物 資源強度	【インパクトの状況】 ・事業における/販売した製品に由来する廃棄物の発生 └最終処分率：0.30%（2024 年度） 【緩和・管理の状況】 ・事業活動全体で水やエネルギーなど資源の削減・再利用・リサイクルに取り組み、資源の有効活用を推進 ・廃棄物は自主目標を設定し、発生抑制と再資源化を推進	17

【目標（KPI）】

内容	目標とモニタリング項目（KPI 等）	関連項番
グリーン電力の提供	**【目標】** ・風力発電設備容量：1,500MW 超（2030 年度） **【モニタリング項目（KPI 等）】** ・風力発電設備容量（連結）	1
再生可能燃料（Renewable Fuel）の提供	**【目標】** ・SAF 供給プロセスの多角化／サプライチェーン構築 ・バイオ ETBE 供給量：24 万 KL **【モニタリング項目（KPI 等）】** ・SAF 供給に向けた取組実績 ・バイオ ETBE 供給量（連結）	3
従業員の活躍推進	**【目標】** ・従業員への教育投資額：年間 18 万円／人（2025 年度） ・データ活用コア人材の育成人数：900 人以上（2025 年度） **【モニタリング項目（KPI 等）】** ・従業員への教育投資額（当社及び中核事業会社（コスモ石油㈱、コスモ石油マーケティング㈱、コスモエネルギー開発㈱））	5
従業員のコンプライアンス意識の向上	**【目標】** ・従業員意識調査スコア └コンプライアンス教育：83%以上 └通報窓口の認知度：94%以上 └企業行動指針の理解：72%以上 ・コンプライアンス違反件数：ゼロ件 **【モニタリング項目（KPI 等）】** ・従業員意識調査スコア（連結） ・コンプライアンス違反件数（連結）	6
女性の採用機会の推進	**【目標】** ・女性管理職比率：10%以上（2025 年度）	7 14

	・新卒学卒女性採用比率：50%以上（第 7 次中計期：2023 年度～2025 年度） **【モニタリング項目（KPI 等）】** ・女性管理職比率（連結） ・新卒学卒女性採用比率（連結）	
従業員の健康への保持増進	**【目標】** ・ストレスチェック受検率：95%以上 ・特定保健指導実施率：40%以上（2025 年度） ・健康生活習慣指数：61%（2025 年度） **【モニタリング項目（KPI 等）】** ・ストレスチェック受検率（連結） ・特定保健指導実施率（連結） ・健康生活習慣指数（連結）	8
従業員のやりがい／生産性の改善	**【目標】** ・従業員意識調査「仕事のやりがい・誇り」のスコア：60 ポイント以上 **【モニタリング項目（KPI 等）】** ・従業員意識調査「仕事のやりがい・誇り」のスコア（当社及び中核事業会社（コスモ石油㈱、コスモ石油マーケティング㈱、コスモエネルギー開発㈱）） **【目標】** ・重大労働災害件数：ゼロ件 ・重大事故件数：ゼロ件 **【モニタリング項目（KPI 等）】** ・重大労働災害件数（連結） ・重大事故件数（連結）	9
労働災害の削減	**【目標】** ・年休取得率：90%以上（2025 年度） **【モニタリング項目（KPI 等）】** ・年休取得率（連結） **【目標】** ・環境影響のある重大事故件数：ゼロ件 **【モニタリング項目（KPI 等）】** ・環境影響のある重大事故件数（連結）	10
労働時間の低減/ワークライフバランスの改善	**【目標】** ・コスモエネルギーグループ企業行動指針に基づいた、法規制／地域協定を遵守した適正処理・取水・排水 └環境負荷の最小化：排水の適正な処理 └水環境の保全：水の回収・再利用 **【モニタリング項目（KPI 等）】** ・取水・排水・使用量（連結） ・排水処理量（連結） ・水質汚濁負荷量（連結） **【目標】** ・GHG 排出量削減割合※1：2030 年度▲30%以上（2013 年度比） ・CO_2 排出削減量（Scope1・2）※2:2030 年度▲30 万 t-CO_2e（2013 年度比）	11
製造拠点から排出される有害物質の削減	**【モニタリング項目（KPI 等）】** ・年休取得率（連結）	12
生産拠点周辺の水域へ与える影響の改善		13
事業活動に伴う GHG の削減		15

	・CO_2削減貢献量：2030年▲170万t-CO_2e（2030年度） ※1 CO_2削減貢献量を含む ※2 CO_2削減貢献量を含まない **【モニタリング項目（KPI等）】** ・GHG排出量削減割合（2013年度比）（連結） ・CO_2排出削減量（Scope1・2）（2013年度比）（連結） ・CO_2削減貢献量（連結）	
事業活動により影響を受ける自然資本の保全	**【目標】** ・30by30目標達成の貢献に向けて、生物多様性・自然資本の保全の取り組みの推進 **【モニタリング項目（KPI等）】** ・30by30目標達成への貢献に向けた取組実績	16
事業における／販売した製品に由来する廃棄物の削減	**【目標】** ・最終処分率：0.3%以下（第7次中計期：2023年度～2025年度） **【モニタリング項目（KPI等）】** ・最終処分率（連結）	17

当行は、特定されたインパクトの創出状況やネガティブ・インパクトの緩和・管理の状況、 目標、モニタリング項目（KPI等）の状況について、ファイナンス期間にわたり年1回モニタリングを実施してまいります。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG　Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以　上